

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-132	15-138	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
The great recession and behavior problems in 9-year old children. 大不況と9歳の子供の問題行動について		
執筆者		
Schneider W, Waldfogel J, Brooks-Gunn J.		
掲載誌		
Dev Psychol. 2015 Nov;51(11):1615-29. doi: 10.1037/dev0000038.		
キーワード		PMID
子供の問題行動、非行、子育て、失業、出生コホート		26347985
要 旨		
<p>目的： 2007-2009年に起こったアメリカの大不況と9歳の子供の4つの行動・態度（①攻撃的な行動（外面的）、②不安やうつ（内面的）、③飲酒や薬物使用、④破壊行為）の関連について検討することを目的とした。</p> <p>方法： アメリカの20の都市から抽出された出生コホート（Fragile Families and Child Wellbeing Study）のデータを用いた。本研究の対象期間は、大不況の直前9年間と大不況の期間（2007-2010年；N=3,311）とした。対象者のうち、白人は21%、黒人50%、ヒスパニック26%、その他3%であった。各地域における失業率だけでなく、消費者信頼感指数（Consumer Sentiment Index, CSI）を用い、子供の問題行動との関連を検討した。なお、CSIは、毎月のアンケート調査による消費意欲と経済の不確実性を評価する指標である。</p> <p>結果： 男児において、CSIにより評価した不確実性が強いことは、外面的、内面的、飲酒・薬物使用、破壊行為といった問題行動を起こす割合が高いことと関連した。さらに、問題行動の有無を母親から、あるいは男児から調査した両者の場合で同様の関連を示した。一方、女兒では、男児に見られた関連はなく、性別による違いは有意であった。CSIと男児の問題行動の関連は、片親の家族で顕著であり、親のしつけによって一部説明された。また、対照的に、失業率と子供の問題行動との関連は弱かった。</p> <p>結論： 本研究により、大不況と子供の問題行動との関連が明らかになった。大不況のような大きな衝撃に対し、子供は性別により違った行動を示し、男児で問題行動をより起こすことが示された。</p>		